

第5回 JACI/GSC シンポジウム

2016年6月2日(木)

時間		講師(敬称略)	所属
9:30 -	受付開始		
9:30 - 9:40	開会挨拶	高橋 恭平	(公社)新化学技術推進協会 会長
9:40 -10:30	基調講演	小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長
10:30 -11:15	招待講演	高橋 隆一	BASF ジャパン株式会社 尼崎研究開発センター長
11:15 -11:55	特別講演	永野 廣作	株式会社カネカ 取締役副社長
	休憩		
13:00 -13:20	基調講演	福島 洋	経済産業省 製造産業局 審議官
13:20 -14:05	招待講演	磯貝 明	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授
14:05 -14:50	招待講演	稲垣 伸二	株式会社豊田中央研究所 シニアフェロー
	休憩		
15:10 -15:55	招待講演	山口 茂弘	名古屋大学トランスフォーメティブ 生命分子研究所 教授
15:55 -16:35	特別講演	村井 眞二	岩谷産業株式会社 中央研究所 所長
16:35 -17:20	GSC 賞・STGA 賞表彰式		
17:30 -19:00	レセプション		

2016年6月3日(金)

時間		講師(敬称略)	所属
9:00 -	受付開始		
9:30 - 9:50	講演	井上 健二	(公社)新化学技術推進協会 事業統括部長
9:50 -11:30	3大臣賞・スモールビジネス賞 受賞講演		
11:30 -12:30	休憩		
12:30 -15:00	EXHIBITION		ポスター・企業・団体展示
15:00 -15:45	招待講演	松山 秀人	神戸大学大学院 工学研究科 教授
15:45 -16:30	招待講演	石川 正司	関西大学 化学生命工学部 教授
16:30 -16:50	ポスター賞表彰式		
16:50 -17:00	閉会挨拶	石塚 博昭	(公社)新化学技術推進協会 副会長

演題及びアブストラクト

6月2日(木)

□小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長

『プラチナ社会に向けたイノベーション』

有限な地球で、量的な豊かさは飽和へと向かいつつある。これからの成長は、生活や人生の質の追求する「プラチナ社会」の実現の中にある。課題先進国である日本は、世界に先駆けて成長の質的変革を実現すべきである。

□高橋 隆一 BASF ジャパン株式会社 尼崎研究開発センター長

『BASF における技術革新 “Global および日本での研究開発の取組み”』

研究開発により社会のトレンドとニーズを特定し、解決策を見出す - この姿勢こそが、1865 年以來の BASF 発展の原動力であり、150 年前と変わらない姿勢で、BASF は現在も新しいシステムと製品開発を続けている。本発表では、BASF が開発してきた特殊添加剤や軽量なコンポーネントとしてのプラスチック製品、および有機エレクトロニクス材料の最新動向を紹介し、BASF が進めてきた From Chemicals to Systems のコンセプトについて述べたい。

□永野 廣作 株式会社カネカ 取締役副社長

『地球環境への貢献を目指したカネカの事業及び新規事業開発』

地球温暖化や食料・資源・エネルギー問題等、様々な環境課題の解決に向けて、化学産業を含めた産業界全体の貢献が求められている。本講演では、持続可能な社会の発展への貢献の視点で、カネカの事業及び新規事業開発への取り組み例をご紹介します。

□福島 洋 経済産業省 製造産業局 審議官

『素材産業をとりまく現状と GSC 関連政策の推進』

我が国が強みを有する素材産業は、サプライチェーンを通じて最終製品の高付加価値化、差別化を図り、成長産業の発展を支える中核産業であると同時に、今後更に踏み込んだ対応が求められる地球温暖化対策、エネルギー対策などの社会的課題の解決に多大な貢献を行い得る重要産業である。本講演では、素材産業をとりまく現状と、GSC 関連政策の推進による素材産業の将来展望について紹介する。

□磯貝 明 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

『セルロースナノファイバー：森林バイオマスから先端材料へのマテリアルストーリーの構築に向けて』

未利用針葉樹資源、技術、科学で世界をリードする日本のナノセルロースの研究開発の現状と課題を、世界の動向と比較して紹介する。不均一な森林バイオマスから、均一で特性解析とナノ構造制御が可能な高性能ナノセルロースを、環境低負荷型プロセスにより製造する技術の構築により、森林バイオマスを先端材料にマテリアルとして利用・蓄積することで地球温暖化防止に貢献できる。

□稲垣 伸二 株式会社豊田中央研究所 シニアフェロー

『メソポーラス有機シリカの光捕集アンテナ機能と人工光合成の構築』

メソポーラス有機シリカは、細孔壁が吸収した光エネルギーを細孔内に濃縮する特異な光捕集アンテナ機能を示す。ここでは、細孔内に種々の光触媒を固定した人工光合成の構築の試みを紹介する。

□山口 茂弘 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 教授

『典型元素化学が拓く未来分子材料』

ホウ素、ケイ素、リンなどの典型元素を含む有機分子の化学は、個々の元素の電子的多様性から、分子性の光・電子機機能を生み出すシーズの宝庫である。この基礎化学をもとに周辺分野との融合をはかることにより、ユニークな分子材料を創出できる。このアプローチによる有機エレクトロニクスやバイオイメージングへの展開の最近の進展について述べたい。

□村井 眞二 岩谷産業株式会社 中央研究所 所長

『水素社会の幕開け——長期的視野を』

水素は、使用時に二酸化炭素を排出しないこと、および資源上の制約がないことから、とりわけわが国にとって重要なエネルギー源としての期待は大きい。健全な水素社会実現への道筋と克服すべき課題を考えたい。

6月3日(金)

□井上 健二 (公社)新化学技術推進協会 事業統括部長

『JACI 活動のご紹介—GSC の新たな方向性を踏まえて—』

(公社)新化学技術推進協会は、技術革新の原動力となる新たな化学技術の発展を通じて、社会の持続的発展と国民生活の向上に寄与することを目的に、GSC を基盤とした活動を積極的に進めています。本講演では、「東京宣言2015」にも盛り込んだ GSC の新たな方向性を踏まえた JACI の活動についてご紹介します。

□3大臣賞・スモールビジネス賞 受賞講演

□松山 秀人 神戸大学大学院 工学研究科 教授

『革新的膜工学を核としたグリーンイノベーションの創出』

地球規模の水不足問題の解決や、地球温暖化現象の抑制への貢献を目指し、神戸大学には、日本で初めて唯一の膜工学に特化した「先端膜工学センター」が設置されている。また2015年にはキャンパス内に「先端膜工学研究拠点施設」(6階建て)が完成した。講演では、グリーンイノベーションの創出を目指した膜工学に関する取り組みを紹介する。

□石川 正司 関西大学 化学生命工学部 教授

『環境負荷低減を実現する蓄電システムの材料開発』

自然エネルギーの有効利用や、電気エネルギーの安定供給には蓄電システムの普及が必須である。本講演では、イオン液体や天然物を駆使した二次電池やキャパシタを紹介し、環境低負荷や宇宙利用へのビジョンを示す。